

どうぶつこうえんニコース



 **千葉市動物公園**
Chiba Zoological Park

No.67

2008

春

エジプトハゲワシ



エジプトハゲワシは、アフリカ大陸・ユーラシア大陸南西部に分布している鳥で、現在、日本の動物園では当園でしか飼育されていません。

2007年10月に、海外よりオス1羽・メス1羽が仲間入りして、3羽が鳥類・水系ゾーンにて展示されています。メスは、まだ幼鳥の羽で褐色ですが、成長に伴い他の個体と同じように白くなっていきます。

野生での食べ物、小型のためか他の動物が食べ終わったあとに残った動物の死骸などの肉片をついばむ

ことが多いです。飼育下では、鶏頭・馬肉・ヒヨコ・マウスなどを与えています。

エジプトハゲワシは道具を使う鳥類として知られている鳥で、ダチョウの卵を見つけると地面に降りて、適当な大きさの石を探します。この石をくちばしにくわえながら頭を上げ、力を含めるように勢いよく振り下ろし、卵にめがけ、たたきつけます。

しかし、卵の殻がなかなか割れない場合は、石を換えたりして何度もこの動作を繰り返します。そのうちに卵にヒビが入り中身が流れ出すと、くちばしをつけてすするようにして食べます。このような行動は、教えたものではなく本能で行っています。

新しく来園した個体は、まだ、環境になれていないためか、卵割り行動は行いません。

ダチョウの卵が手に入ると、いくつかの適当な石といっしょに放飼場に入れますが、すぐに卵割りを行います。不定期ですが、このような興味深い行動を見せます。映像でご覧になりたい方は、名板の横にあるQRコード（携帯電話のバーコード読み取り機能）でもダチョウの卵割りをしているところが見られます。

まだ若い個体なので先になると思いますが、かわいいヒナが見られることを願っています。

石井 信一 (Shinichi Ishii)

目次

CONTENTS

表紙【ハートマンヤマシマウマ】	①
トピックス【エジプトハゲワシ】	②
子ども動物園より(12)	③
ムフロンからヒツジが誕生!?	④
ボランティア活動開始	⑤
バードウォッチング開催	⑤
動物公園の動物【アメリカビーバー】	⑥
動物病院から	
【テンジクネズミ・ウエッジ君の災難】	⑥
動物公園日誌から【'07.10/1~'07.12/31】	⑦
裏表紙【アカツクシガモ】	⑧
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ハートマンヤマシマウマ

当園では、ハートマンヤマシマウマと、グレビーシマウマの2種を飼育展示しておりますが、今回の表紙は前者のほうです。2種を展示している理由は、生息地や生息環境の違いが体形や蹄の違いに現れていることを知っていただくことでした。こうした展示方法を比較展示といいます。

ヤマシマウマという名のとおり、南西アフリカの山岳地帯に点在する草原で小さな群れをつくって暮らしています。分類上シマウマは、ウマよりもロバに近く、めったに聞くことはできませんが鳴き声はロバのようです。

当園では、その他にウマの仲間は家畜原種ゾーンでモウコノウマが、子ども動物園で家畜ウマ3品種、家畜ロバ1品種がご覧になれます。それぞれ比較して観察されてはいかがでしょうか。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成20年1月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.Jan.2008

哺乳類	67種	444点	両生類	1種	2点
鳥類	75種	331点	魚類	1種	2点
爬虫類	7種	31点	総計	151種	810点



子ども動物園より(12)



気まぐれな チンチラ

ついにふれあいデビュー

コンタクトコーナーでは、このほどチンチラの「アライ」さんが、ふれあいデビューを果たしました。

生まれたときから毛も生え、眼もあいており、まるでオトナのミニチュア版のような姿で、実にかわいらしいと評判の動物です。ペットとしてもずいぶん人気があるとのこと。

でも、チンチラたちには悲しい歴史があります。南アメリカに植したヨーロッパの人々は、チンチラのすばらしい毛皮に目をつけ、高級な毛皮として主に貴族などの身を飾るためにたくさんの野生チンチラを捕まえました。そのため、3種類いたチンチラは19世紀末にはその数が激減し、中でも「ジャイアントチンチラ」という種はこの世からいなくなりました。「チビオチンチラ」という種も絶滅寸前になってしまいました。

これではいけないということで、その後保護策がとられ、3つめの種である「チンチラ」を飼育下で増やすことに成功しましたので、その後、この種がペットとしても世界中で飼われ始めるようになりました。

子ども動物園の中ほど、プレーリードッグの展示場のすぐ裏に、ひっそりと展示されているチンチラですが、ここ数年、順調に増えてきていますので、昨年からは少しずつ人にふれられることに馴れさせています。ただ、人の手のあたかさはあまりチンチラにはよくないようで、1日に30分ほどですが、ほぼ毎日登場してもらっています。

チンチラの魅力は、まず何といってもその手触りの

よい毛並みにあります。1本1本は絹のような細さで、1つの毛根から多いときで60本も生えている上、毛根の数も大変多いため、毛の密度では誰にも負けません。

性格は、やや臆病で、驚くとパニックを起

こすこともあります。優しくふれる分には問題がないようです。

ただ、困るのはそのジャンプ力とすばしっこい身のこなしです。自分の体高の数倍はジャンプできますので、ちょっと眼を離すとあっという間にジャンプしてどこかに隠れてしまいます。かといって、抱きかかえ

れるとずるりと身をかわしてしまいます。こんな「アライ」さんですが、人間のほうがじっとしていると、いつのまにか自分からひざに登ってきたり、身を寄せてきたりすることもあり、こうした「気まぐれ」に辛抱強くつきあうことのできる方は、ぜひチンチラとのふれあいを体験してみてください。

並木 美砂子 (Misako Namiki)



「アライ」さんの生年月日：2006年5月30日(オス)



出番を待つ「アライ」さん

ムフロンからヒツジが誕生!?



ムフロン



ヒツジ

人類に潤いと豊かさをもたらしてくれた動物“ムフロン”を今回はご紹介します。

世界中には、たくさんの動物が飼育されていますが、乳牛や豚よりも多く、10億頭をも超える動物がいるのをご存知ですか？ それは、ヒツジ（綿羊）なのです。そして、そのヒツジ、実はこのムフロンから誕生したといわれています。

しかし、実際にご覧になると、あなたがイメージしているヒツジとは幾分違うと思います。岩山を軽々と駆け登る敏捷性、すぐれた跳躍力、雄にみられる大きな角、茶褐色のすっきりとした体毛。この野性ヒツジであるムフロンをはるか1万年も前から改良し続けた結果、現在のヒツジができあがりました。

ムフロンの体は、通常粗毛で覆われていますが、冬になるとその下に柔らかい綿のような毛が密生します。冬に密生した毛は、夏には抜け落ちてしまいます。そこで、下毛の羊毛が多く、換毛しない（生え換わらない）品種が選ばれて家畜化されていきました。さらに、毛色は染色し

やすいように白色のものが好まれていきました。また、ムフロンには繁殖時期に雌を獲得しようと、雄同士が角と角を壮絶にぶつけ合う“角突き”が見られます。そのため角のない穏やかな、群性の強い品種が選ばれ改良されていきました。

もし、ムフロンがいなければヒツジは存在しなかったでしょう。そして、ヒツジがいなければ人々は不自由な生活を強いられ、さらに、眠れない夜に数える動物もいなかったでしょう。

動物園では、人気動物や珍しい動物が脚光を浴びがちで、家畜は身近な動物であるがため、その存在を忘れられがちです。しかし、すべての家畜は太古より身を削り、人類の発展に、そして存続に尽くしてきてくれました。

千葉市動物公園では、家畜のもとになった動物（原種）や今でも世界各国で活躍している動物を一つのゾーン（家畜の原種ゾーン）で展示しています。人類の偉大なパートナーとして、来園した際に見つめ直していただければ幸いです。

中村 彰宏（Akihiro Nakamura）



現在、サポーター制度により、ムフロンの展示場前に動物解説板の設置を計画しております。

設置されましたら、解説板をご覧になりながら我々の生活を豊かにしてくれたムフロンをご覧ください。

ボランティア活動を 開始して



わたしたち千葉市動物公園ボランティア1期生は、数か月の研修期間を経て、2007年4月から活動を始めました。それぞれに、好きな動物の前に立ってお客様が来られたときに解説をしたり、園内を巡回して道案内や写真撮影のお手伝いをしたり、サマースクールやクイズラリーなどのイベントを手伝ったりと、各自が考えながら活動して最初の1年が過ぎました。

けれども一人一人バラバラに活動していると、動物の解説をしたくても話し出すキッカケをつかむのが難しいのです。そこで、この春から数人ずつの班でガイドツアーを催す計画を立てました。手始めに「他園ではめったに見られない珍しい動物」をテーマに、数種に絞って解説を練習しています。だんだんとレポトリを広げて、様々なテーマでツアーを組めるようにしていく予定です。また、子ども向けの楽しいイベントも、自分たちで企画したいと思っています。



研修期間から今日まで、多くの飼育員さんや獣医さんから、いろいろなことを親切に教えていただきました。そうして得た知識や、面白いと思ったこと、感動したことなど、今度はわたしたちから来園者の皆さんへ伝えていきたいと思います。千葉市動物公園を100パーセント楽しむために、わたしたちボランティアをお役に立たせてくださいね、どうぞよろしくお願いします。

千葉市動物公園ボランティア
金森 美智子 (Michiko Kanamori)



雪の中の バードウォッチング

2月3日、動物公園では「バードウォッチング」が開催されました。この日は前日から降り続く雪の中、開園と同時に参加者と解説員は大池へ向け出発しました。

最初のポイントである大池に向かう途中、普段見られるカラスやスズメなどの姿を全く確認することができず、この天気では鳥は観察できないのではないかという思いが頭をよぎる中進んでいくと、まず最初にキジバトを確認、さらに大池ではカルガモが数羽、水面を何事もなく泳いでいるのが見え、とりあえずは一安心です。このカルガモは生息、繁殖を大池でします。さらに大池の中ほどにある橋から奥の方をフィールドスコープで覗くと、コガモやオシドリがつがいで泳いでいる姿が確認できました。

降り続く雪のせいで他の鳥の姿は確認できずに、園内へ場所を移動しようとしたその時!? 通路に何か黄色いものが動いています。「キセキレイ」です。落ちている餌でも食べているのでしょうか、一向に

飛んでいく気配がなく通路を歩いています。この辺りでは見ることは珍しく、白い雪の中に黄色い体が浮かんで見えて一層きれいに映りました。

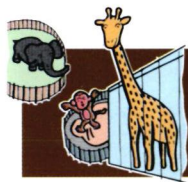
その後は園内へ移動し、シジュウカラ、ウグイス、コゲラ、ヒヨドリ、アオジなどを確認することができましたが、雪がかなり降ってきたため、動物科学館内のレクチャールームへ場所を移し、今回確認できた鳥の種類や特徴などを解説し終了となりました。

今回はバードウォッチング始まって以来、2度目の雪の中の開催で、確認できた鳥の種類もいつもよりも少なかったのですが、来年以降も開催いたしますので、初心者からベテランの方まで鳥好きな皆様のご参加を心よりお待ちしております。

来年は雪が降らないように…。

平木 利幸 (Toshiyuki Hiraki)





動物公園の動物

家造りに夢中のビーバー



アメリカビーバーという動物を初めて見る来園者の方は、日中ご覧いただくことが多いためか、「寝てばかり」、「動かないから太っている」なんて声をよく耳にします。ビーバーは夜行性のため、日中は寝ていることが多く、遅くなる時は午後2時頃やっと活動し始めます。

当園の展示場はビーバーの行動（泳ぐ姿、陸上、巣の中）がいつでも観察できるようになっています。しかし、泳いでいる姿より寝ている姿を見ることが多く、来園者からは「怠け者」イメージが定着しているようです。

では、本当にビーバーは怠け者なののでしょうか？ 当園の雄ビーバー「ドン」の名誉のため、少々ビーバーの夜間の行動について説明させていただきます。

ビーバーは夜間、せっせと巣造りや、ダム造りをします。野生では長さ100m、高さ3mにもなるダムが発見されたこともあります。切れ味鋭く、一生伸び続ける門歯で木を切り倒し、それを運び、巣を作ります。その際、水路（ダムを造り、コースを造る）を造り自分の巣まで木を運びやすくします。

ドンも展示場に飼育員が立てた木を每晚削って倒し、巣に運んでいます。その際、泥や小石、葉っぱなども運び、組み立てるのに役立っています。彼も夜は働き者となり、巣造りに専念している訳です。日中寝ていることが多いのもそのためなのです。ドンは最近特に頑張っているようです。何故かという、雌の「ピン」が当園にやって来たからです。立派な巣を造り、ピンに気に入られようとしているようです。

現在、2頭のビーバーは寝室内でペアリングをしています。ピンが環境に慣れ、ドンとの新しい生活にも慣れましたら、皆さんにも2頭一緒にの姿をご覧いただけたと思っています。もうしばらくは、ドンが新しい家造りに奮闘している姿を応援してください。

古谷 保生 (Yasuo Furuya)



動物病院から

テンジクネズミ・ウエッジ君の災難

ふれあいで人気のテンジクネズミを診察することは結構多いのですが、数年の寿命なので同じ個体を何度も診ることはそれほどありません。でも、ウエッジ君は違います。

彼は3年前の3月に生まれ、5ヵ月後去勢手術を受けました。思えばこれが災難の始まりだったのかもしれませんが。テンジクネズミの去勢は特別気をつけているのですが、不運にもウエッジは傷跡が腫れてしまい、治まるまで3ヶ月もかかりました。更になぜか1年後にその左の傷跡、2年以上経ってから今度は右がまた腫れてしまいました。きれいになっていたのに訳が分かりません。結局それぞれ切開して治療し、今では傷跡も分からなくなりましたが。

そしてその間には、他の個体にお尻を噛まれたり、顔の皮膚がガサガサになったりもしました。カビのせいでよく顔はそうなるのでカビの薬をやっても全く効きません。担当ももう治らないと諦めモード。でも調べ直してみるとダニが原因だと分かり、ダニの薬に変えたらあっという間に良くなり、彼は命拾いをしたのです。

災難続きの彼のカルテはたった3年なのに、他のテンジクネズミよりも厚くなってしまいました。今はまた別のことで治療中です。こんなにたくさんの不運にもめげないウエッジ君、子ども動物園で出会ったら是非励ましてあげてくださいね。

辻村 直美 (Naomi Tsujimura)





動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'07年10月1日~'07年12月31日

10月1日 アビシニアコロボス（雌1）、東京都多摩動物公園へ搬出
ケープペンギン、体重測定 R青：3,200g、アルミ青：3,500g、アルミ：3,300g、緑：3,500g、ピンク青：2,950g、白：2,700g
レッサーパンダ、体重測定（風太：6,740g、チチチ：6,230g、ユウタ：6,780g、風花：6,610g、風美：1,840g、風鈴：1,780g）
フンボルトペンギン、体重測定 No.51：4,400g、No.52：4,400g
10月2日 ケープペンギン、体重測定 R赤：3,700g、L赤：2,800g、L青：2,800g
関東農政局千葉農政事務所より子ども動物園のウシの目標を確認に来る
10月3日 アメリカビーバー、朝よりベアリング



10月4日 ミーアキャット、日中、子ども3匹よく活動し、ミールワームを食べる
10月6日 パタスザル（1）、シロガオマーモセット（2）、ショウガラゴ（2）、キンカシュー（1）、ヘビクイワシ（1）、搬入
10月7日 パタスザル（1）、搬入
オグロマーモセット（2）、繁殖
コウラウン（1）、死亡
写真教室開催
10月8日 レッサーパンダ、チチチ親子7：15から9：30放飼
クロミミマーモセット、3匹出産し2匹死亡
10月12日 レッサーパンダ、チチチ親子一般公開開始
10月14日 ワンポイントウォッチング（モウコノウマ）
10月15日 ボルネオオランウータン、蜂蜜を与えるがすぐに竹の棒を折ってしまう 2本目も与えるがすぐ折り、蜂蜜は全て残っていた
シロガオマーモセット、2頭繁殖
レッサーパンダ、体重測定（風太：6,640g、チチチ：6,150g、ユウタ：6,760g、風花：6,640g、風美：2,180g、風鈴：2,020g）
エジプトハゲワシ（雄1、雌1）、検疫明けで、鳥類水系ゾーンに移動
10月16日 フクロテナガザル、トンボを捕まえ食べていた
10月17日 クロミミマーモセット（仔）、親から落ちていたので人工保育とする
10月18日 ワオキツネザル、全頭同居、No.20がNo.5・16を追う 昼ごろやや落ち着く
10月19日 クロミミマーモセット（仔）、人工6回
ケープペンギン、体重測定 L青：2,200g、L赤：2,180g
10月22日 マレーバク（雄1）、東武動物公園へ繁殖貸与
10月23日 千葉市立大宮中学校、職場体験（24日まで）実施
10月24日 子ども動物園ウマ類、馬インフルエンザ接種
10月26日 西の宮小学校にて出張授業を行う
10月29日 ケープペンギン、体重測定 R青：3,050g、アルミ青：3,200g、アルミ：3,200g、緑：3,200g、ピンク青：2,800g、白：3,520g、R赤：3,150g
レッサーパンダ、体重測定（風太：6,666g、チチチ：6,050g、ユウタ：6,750g、風花：6,670g、風美：2,450g、風鈴：2,210g）
10月31日 コツメカワウソ、水中で交尾
11月2日 クロミミマーモセット（仔）、人工5回 飲まなくなるので回数を1回減らし、間隔をあける



11月3日 ムツオビアルマジロ（雄1）、パカ（雌1）、新着
11月6日 ミナミコアリクイ（雄1）、新着
ベニハシガモ（雄1）、死亡
11月7日 習志野市立習志野第7中学校、職場訪問
11月8日 フンボルトペンギン、産卵
11月11日 フンボルトペンギン、産卵
ワンポイントウォッチング（ナベコウ）
11月12日 クロミミマーモセット（仔）、人工4回

11月14日 プレーリードッグ、体重測定 No.49：870g、No.61：1,185g、No.63：1,015g
11月15日 オオカンガル（1頭）、繁殖
ワオキツネザル（雄：親）、追われて池に落ちるがすぐに陸に上がる
11月16日 フンボルトペンギン、抱卵中の卵見あたらず（カラスの被害か）
11月17日 プレーリードッグ（No.63）、展示場でお見合いをする
11月19日 パカ、展示場で同居を試みるが攻撃しあう
11月20日 キンカシュー（1頭）、繁殖
11月23日 Zooキッズラリー
11月24日 エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割りを実施
ミーアキャット（仔）、モートに落ちていた 自力であがらなかったため捕獲し戻す
11月26日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6,590g、チチチ：6,320g、ユウタ：6,620g、風花：6,790g、風美：3,180g、風鈴：2,850g）
11月27日 ビグミーマーモセット（1頭）、繁殖
11月28日 アジアソウ（雄）、室内でワラ、屋外で青草を大量に残す 側頭腺にじむバドックに朝出てから、よく鳴き声を轟で激しく押す（ムストか？）
オオカンガル（No.53）、死亡
11月29日 エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割りを実施
12月2日 ワンポイントウォッチング（ミーアキャット）
12月3日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6,540g、チチチ：6,350g、ユウタ：6,680g、風花：6,660g、風美：3,440g、風鈴：3,080g）
12月4日 オニオオハシ、裏外個体をバードホールに放す 他の個体と嘴で攻撃しあう
12月5日 ゴリラ（モモタロウ：体重85kg）、放飼場のロープ丸太側からケヤキ側にほぼ渡りきる
12月6日 オオカンガル（1頭）、桐生が岡動物園へ、搬出
アカツクシガモ（雄2、雌2）、桐生が岡動物園より、新着
シロエリハゲワシ（雌1）、死亡



12月8日 Zooキッズデー、開催
ミーアキャット（雌1）、死亡
12月9日 クロミミマーモセット（仔）、人工の仔、ケージの下の網に手をかけ動けなくなり、赤外灯の側であったため熱中症で死亡
12月10日 レッサーパンダ、体重測定（風太：6,640g、チチチ：6,130g、ユウタ：6,610g、風花：6,780g、風美：3,540g、風鈴：3,430g）
12月11日 パタスザル（雄1）、検疫明け すぐ同居するが大きなトラブルはなし
12月13日 パタスザル、興奮したのか、雌が新雄を追い回し組み敷くが、特に咬んだりせずすぐに放す その後は特に問題なし
12月14日 カオムラサキラングール（雌：仔）、朝より覇気がなく、食欲もあまりなし 赤外灯で保温する
12月16日 クリスマスシアター開催
12月17日 カオムラサキラングール（雌：仔）、動きが鈍いため捕獲し予備室に移す 12：00前に死亡確認
レッサーパンダ、体重測定（風太：6,580g、チチチ：6,140g、ユウタ：6,630g、風花：6,760g、風美：3,740g、風鈴：3,450g）
ムツオビアルマジロ（雄）、検疫明け
12月19日 アカツクシガモ（4羽）、検疫明けで、水禽池で展示開始
12月21日 レッサーパンダ（ユウタ）、馴化施設へ移動 落ち着かず収容は抱えて行う
レッサーパンダ（ユウタ）、巣箱から出てこない 餌食いもリンゴ、煮イモ、煮にんじん等は食べるが後は残す
12月23日 レッサーパンダ（ユウタ）、餌の残りなし
12月24日 ミナミコアリクイ、No.1（雌）とNo.3（雄）を展示場で同居させる 雌は巣箱に逃げ、雄が近づくと攻撃する
12月25日 コシロヤマドリ（雄1）、井の頭自然文化園より、新着
12月29日 エリマキキツネザル、交尾

浅野 洋之（Hiroyuki Asano）

編集後記

雪に見舞われた節分には、冬の風物詩「バードウォッチング」が数年振りの雪の中での開催となりました。そして、暦では既に春、この号が発行される頃には啓蛰ともなり、園内の木々も芽吹き始め、寒さでじっとしていた動物たちも元気よく動き出します。

新年度には、動物科学館にて、今までに園内で産まれた動物の赤ちゃんたちの写真展示を計画しています。ぜひ、またご家族お揃いでご来園ください。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

どうぶつこうえんニュース編集委員



アカツクシガモ

動物取扱業者標識	
①氏名または名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展示
⑤登録番号	第50015号
⑥登録年月日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典



サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費(4月～翌年3月) 個人会員 **1,000**円(1口)
法人会員 **10,000**円(1口)

オリジナルグッズプレゼント♪ サポーターズデイに無料ご招待!

お問い合わせは ☎**043-252-1111**



Information

平成20年3月の 催し物一覧

- ★ 3月9日(日) ワンポイントウォッチング(カヤネズミ)
- ★ 3月20日(木) Zooクイズラリー

4月以降のイベントにつきましては、ホームページをご覧ください。

駐車場料金 減免のお知らせ

平成20年1月1日より下記の手帳をお持ちの方の普通車の駐車料金が免除になりました。

- 身体障害者手帳
- 精神障害者保健福祉手帳
- 療育手帳

お入りになる際、料金所のインターホンでお伝えください。

どうぶつこうえんニュース第67号
平成20年3月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>
財千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-City Japan.

(総合案内) ☎ 043-252-1111